平成 27 年・28 年度　白山市教育委員会研究指定
「白山市学力向上パイオニア・プラン」研究推進校

「生きる力」を磨く

～目標実現のために、自ら考え、主体的に活動できる生徒の育成～

よく学び深く考える生徒

主体的に活動できる心豊かな生徒

白山市立北星中学校

Ⅰ．研究構想図

教育目標

『確かな学力を身につけ、心豊かでたくましい生徒の育成』

めざす生徒像

①主体的に活動できる生徒
- 夢や目標を抱き、その実現に向けて主体的に取り組める生徒
- 他の意見を尊重し、自分の考えをまとめて提言できる生徒
- 自分のできることについて考え、実践できる生徒

②よく学び深く考える生徒
- 学ぶことの大切さ、学ぶことの喜びを知り、さらに向上しようとする生徒
- 自ら学び、主体的に判断し行動し、よりよく課題を解決できる生徒

③心豊かな生徒
- 自らを律しつつ、他人と共に協調できる生徒
- 他人を思いやる心や感謝と感動する心を持った生徒

目標の実現のために自ら考える姿勢 ＝ 主体性

平成28年度研究主題

「生きる力」を磨く

～目標の実現のために、自ら考え、主体的に活動できる生徒の育成～

研究の重点

授業を中心として、主体性を高めるには

①「教材との出会わせ方」を工夫し、必然性のある「課題」につなげる。

②活用力・主体性・協力の「場」を設定し、その設定理由を生徒と共有する。

学校研究としての取組

習慣化 何かできることはないかと考える

教職員 場の設定に心血を注ぐ

□ボランティアの心　□行事でつながる

□安心・安全　□家庭・地域との連携

学習進路指導	生徒指導	特別活動指導	ＰＴＡ

北星中生を育てる基盤

Ⅱ．主題設定の理由

全体的に明るく素直な生徒が多く、落ち着いて授業に取り組むことができている。指示されたことや決められたことにはきちんと取り組もうとする一方で、自分の考えや意見を発表することについては、やや消極的なことが課題であった。家庭学習においても、与えられた課題への良好な取組に対し、予習・復習や自分で考えて計画的に取り組む学習については不十分である。

一方、生徒自らが自覚するように、伝統的に学校行事やボランティア活動はとても盛り上がり、本校の生徒の主体性を育む基盤となってきた。

さて、「生きる力」を身につけさせることは、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた生徒を育成することに他ならない。**本研究では、学力の三要素である「主体性」にスポットをあて、授業を中心としてそれを伸ばすことに力を注ぐこととした。**

これまで、主体性を伸ばす場を意図的に設定してきたことにより、その成果は徐々に生徒に表れてきている。しかし、豊かな人間関係を基盤とした生徒同士の教え合い、助け合いや、習得した知識・技能を活用して、自ら考え、判断し、主体的に活動する力は、まだ十分とは言えない。

そこでこうした状況を踏まえ、「主体性を持っていろいろな人たちと協働していく力」を育んでいくことを目指して、研究主題を**「『生きる力』を磨く」**とし、副題を**「目標の実現のために、自ら考え、主体的に活動できる生徒の育成」**とした。

Ⅲ．研究仮説

各教科において、目標の実現のために、自ら考え、主体的に活動する指導を推進すれば、生徒の確かな学力が向上し、生きる力が磨かれると考えられる。生徒が、

①工夫された「課題」と「まとめ」により、見通しを持って授業に取り組む

②行事等において、的確なねらいをつかんで行動する

③意図的に設定された考える場で、「他にできることはないか」と考える習慣を持つ

ならば、その主体性が育まれるであろう。

Ⅳ．具体的な取組

1．指導改善を進める校内研究の推進

❶教科部会を中心とした研究

・毎月定例の教科部会を設定
　全教科共通テーマによる話し合い
　　→研究だよりで共有

１名しか所属していない教科については、テーマに応じて２名（音楽・美術合同部会）や４名（音楽・美術・技術・家庭合同部会）の編成で行う

❷校内全体における授業力向上の取組

・校内研究授業

授業整理会では、研究の重点である２点に絞って話し合いを深める

・「授業相互参観週間」

→気軽に授業を見合う風土づくり

・講師を招聘しての研修会「アクティブ・ラーニングについて」

❸学校評価や授業アンケートの活用

・学校評価

４段階のうち、「Ａ評価（よくあてはまる）」の数値変化を注視

→「主体性」の育成はこの伸張に表れると考える

・授業アンケート

質問項目は教科部会でも検討

→研究の重点を中心とした授業改善に活用

2.『北星中学校オリジナル授業デザイン』に基づいた授業づくり

❶教材との出会わせ方の工夫

→必然性のある「課題」

❷学習のゴール・見通しが持てる「課題」の工夫

❸思考・判断・表現の「場」の設定

・設定理由を生徒と共有

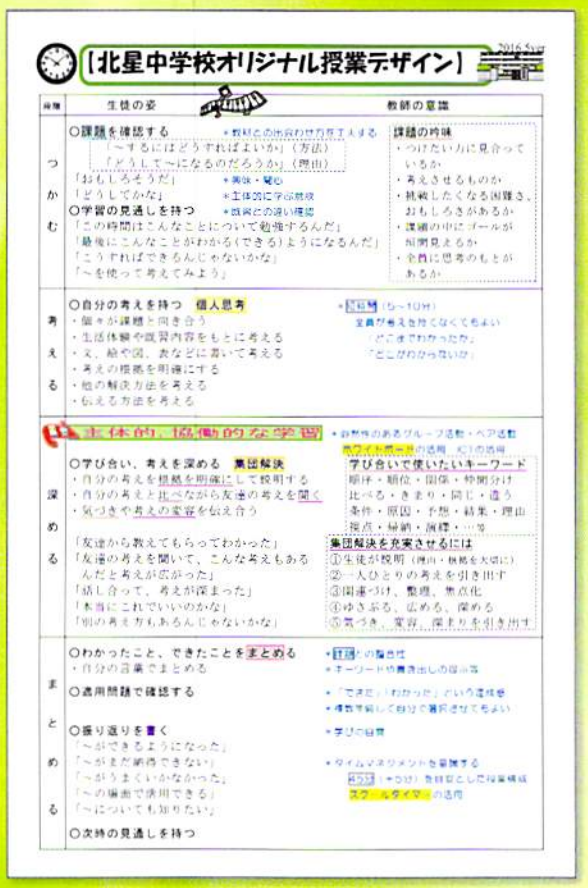
→主体的な学び

・全学級で男女が市松模様の座席配置

・ホワイトボードセットやスクールタイマーを全教室に常備

❹「まとめ」「適用問題」の工夫

→「わかった」「できた」という実感



【北星中学校オリジナル授業デザイン】

時間	生徒の姿	教師の意識
つかむ	○課題を確認する　＊教材との出会わせ方を工夫する 「～するにはどうすればよいか」（方法） 「どうして～になるのだろうか」（理由） 「おもしろそうだ」　＊興味・関心 「どうしてかな」　＊主体的に学ぶ姿勢 ○学習の見通しを持つ　＊既習との深い結び付き 「この時間はこんなことについて勉強するんだ」 「最後にこんなことがわかる（できる）ようになるんだ」 「こうすればできるんじゃないかな」 「～を使って考えてみよう」	課題の吟味 ・つけたい力に見合っているか ・考えさせるものか ・挑戦したくなる困難さ、おもしろさがあるか ・課題の中にゴールが明確見えるか ・全員に思考のもとがあるか
考える	○自分の考えを持つ　個人思考 ・個々が課題と向き合う ・生活体験や既習内容をもとに考える ・文、絵や図、表などに書いて考える ・考えの根拠を明確にする ・他の解決方法を考える ・伝える方法を考える	＊記録時（5～10分） 全員が考えを持てなくてもよい 「どこまでわかったか」 「どこがわからないか」
深める	主体的・協働的な学習　＊自然性のあるグループ活動・ペア活動 ホワイトボードの活用　KJ法の活用 ○学び合い、考えを深める　集団解決 ・自分の考えを根拠を明確にして説明する ・自分の考えと比べながら友達の考えを聞く ・気づきや考えの変容を伝え合う 「友達から教えてもらってわかった」 「友達の考えを聞いて、こんな考えもあるんだと考えが広がった」 「話し合って、考えが深まった」 「本当にこれでいいのかな」 「別の考え方もあるんじゃないかな」	学び合いで使いたいキーワード 順序・順位・関係・仲間分け 比べる・きまり・同じ・違う 条件・原因・予想・結果・理由 視点・帰納・演繹・…等 集団解決を充実させるには ①生徒が説明（理由・根拠を大切に） ②一人ひとりの考えを引き出す ③関連づけ、整理、焦点化 ④ゆさぶる、広める、深める ⑤気づき、変容、深まりを引き出す
まとめる	○わかったこと、できたことをまとめる ・自分の言葉でまとめる ○適用問題で確認する ○振り返りを書く 「～ができるようになった」 「～がまだ納得できない」 「～がうまくいかなかった」 「この場面で使用できる」 「～についても知りたい」 ○次時の見通しを持つ	＊評価との関連性 ＊キーワードの書き出しの提示等 ＊「できた」「わかった」という達成感 ＊複数用意して自分で選択させてもよい ＊学びの継続 ＊タイムマネジメントを意識する ポスター（＊ウロ）教材としての授業構成 スクールタイマーの活用

3．学習の基盤づくり

❶学習規律の徹底

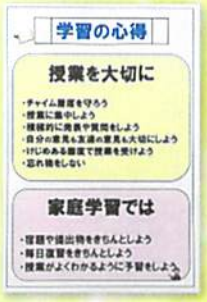
・学年のスタートに共通理解を図る

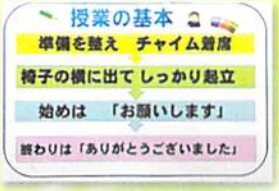
「学習の心得」……授業や家庭学習に対する心構え

「授業の基本」……授業開始や姿勢について

・後期のスタートに、焦点を絞ってさらなる徹底を図る

「授業規律向上週間」…授業のあいさつ





❷家庭における学習習慣の定着

・「家庭学習パワーアップ週間」

学習時間（量・時間帯）に焦点を当て

教師と保護者が連携しながら

『定期テストの範囲発表をしてから部活動停止に入るまで』の期間、テスト計画・実施表に、保護者のサインやコメントをもらう

家庭での会話が増えることで、生徒にとって励みや家庭学習の改善のヒントにつながる

・「自学ノートレベルアップ週間」

学習内容や方法に焦点を当て

生徒相互の交流を図りながら、

レベルアップを目指す

自身の工夫点を紹介するとともに友達からの意見をもらう

❸学習意欲の喚起

・「学習コンテスト」の計画的な実施

短期目標を持ちながら、計画的に学習する姿勢

教え合いや競い合いなど生徒相互の関わり合い

努力の末に達成感を味わう経験

・「他に何かできることはないか」と問いかけ、考えさせる習慣

→主体的に学習に取り組む姿勢へ

・掲示環境の整備（学習活動の成果物、行事を終えた感想文など）

→目指す姿を示す

❹特別活動からの取組

・日常の清掃や委員会、行事等の活動における主体性の育成

・行事ごとのねらいの見直し

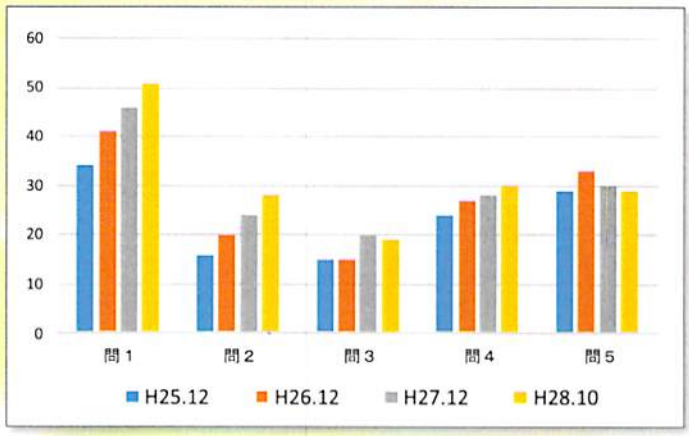
Ⅴ．成果と課題

成　果

1．生徒の学習に関わる意識の高まり

❶学校アンケートの結果より（Ａ評価の推移）

問１　授業のルールを意識し、授業に参加している
問２　授業が分かりやすいと思っている
問３　授業中、考えたことや分かったことを表現することができている
問４　授業中、自分の考えを持ち、先生や友達の話を聞くことで深めることができている
問５　家庭学習の習慣が身についてきている



「Ａ評価（よくあてはまる）」の値の推移から、授業に関わる生徒の意識は改善されてきている。特に、授業規律が定着し、授業中、考えたことや分かったことを表現することや自分の考えを持ち、先生や友達の話を聞くことで深めることができていると考えている生徒が増えてきている。しかし、家庭学習の習慣については、変容は現れていない。

❷「家庭学習パワーアップ週間」終了後のアンケートの結果より（H28.10）

今までの定期テストと比べて、	増えた		どちらかというと増えた		
・家庭学習の時間はどうなりましたか	３８％	＋	５２％	＝	９０％
・家庭学習について家の人と話す機会はどうなりましたか	２７％	＋	５３％	＝	８０％

部活動停止期間前の10日間ではあるが、家庭にも協力を求め、家庭での会話が増えることで、生徒にとって励みとなり、意識の変化が見られた。これをヒントに、家庭との連携を工夫していきたい。

2．教師の指導改善に向けた意識の高まり

教科部会を中心とした学校研究を重ねる中で、指導力向上という目標のもとに、教科というチームの結びつきが強くなった。個々の持ち味を生かし、協力し合う過程において、まさしく『協働』することの価値を体感することができた。そして、それぞれの教科の特性を認め合いながら、『チーム北星』として目指すところを共有し取り組んでいる過程が、まさしく教師自身の「主体性」を育んでいくことにつながった。

課　題

- 生徒の主体性をさらに伸ばす指導法の改善
- 学力向上につながる日常的な家庭学習の量と質の向上
- 生徒の自己有用感を育むための家庭や地域との連携